

一年を振り返って



平成 27 年度も残すところあとわずか。この一年を振り返って、いくつかの活動の中から主なものをピックアップしてみました。

☆「かけがわっ子ひろば」の開設

今年度のもっとも大きな出来事は瀬戸市の委託事業として放課後学級「かけがわっ子ひろば」を 10 月 1 日に立ち上げたことです。地域や保護者の方々の熱い思いが実って実現することができました。

今後は、今までにも増して保護者や児童に寄り添った運営ができるよう取り組んでいかなければなりません。皆さんの積極的な協力が必要です。よろしくお願いします。

☆村上信夫講演会の開催

11 月 7 日にはラジオでおなじみの村上信夫さんの講演会をもちました。自然いっぱいの掛川の里にたちのぼる嬉しい言葉…。「こころとこころ、ことばとことば」を通して人とのつながりを大切にされる村上さんのお話でした。会場には伊藤保徳市長も一参加者として最後まで聴いていられました。

☆掛川マップ作り

「地域をもっと知ろう。ウォーキングにも活用できるマップを」との思いでコミュニケーショングループが中心となって掛川マップづくりに取り組みました。両町の自然、歴史、ビューポイントなどを取り入れて畳 1 枚分の大きさの掛川マップを作りました。現在、掛川公民館に保管しています。

次年度は、ハンディタイプの絵地図を印刷し、皆さんに配布する計画です。これをポケットに、グループで散策したり歴史や自然の観察をしたりするなかでお互いのコミュニケーションを図る一助となればと思っています。

☆「掛川お助けたい」の立ち上げ

掛川地区に暮らす高齢者等、様々な年代の方が日常生活で困っていることを勤労支援などの活動を通してお助けする組織を高齢者支援グループが中心となって作りましたお助けする側も生きがい・やりがいを見つけ、地域力向上に寄与していきたいというのが活動の趣旨です。この 4 月からいよいよ活動開始です。

「掛川お助けたい」は 4月1日から活動を開始します

お助けたいが、いよいよ新年度から活動をはじめます。
たい員に応募いただいた方々、ありがとうございました。
活動内容等詳しくは「やまびこ」第12号(12月発行)をご覧ください。

お助け
たいの
申し込み

お近くの地域力向上委員会委員・役員または下記にご連絡ください。ご連絡後は、係が下見に伺います。
下半田川町：前田 純二 電話 48-4434
定光寺町：小林久仁 電話 48-5273



環境整備作業をしました



2月7日、本年度第2回目の環境整備作業を行いました。相変わらずのゴミの多さに危機感をつのらせた人もいます。

参加者は両町あわせて56名でした。大勢の方々にご協力いただき、ありがとうございました。

定光寺町の祭り お稲荷さま 柴田昌乃

定光寺町の稲荷は伏見稲荷の分霊を祀っている村のお稲荷さまです。例祭日は三月の初午の日ですが、最近では三月の第一日曜日におこなわれています。お神酒、油揚げをお供えし、焚き火をして油揚げをあぶって食べ、お神酒をいただきます。

今年は、朽ちてしまっていた鳥居が町内の方のご厚意により新調されました。入口の真っ赤な鳥居が目を引きます。

初午が早いとその年は火事が多いと言われていました。また、「失せ物、忘れ物、落し物などしたときお願いするとよく出てくる」「お金には不自由しない」と言われています。

昔、各家では蚕がよくとれるようにと「繭玉」を作ってお供えしました。和え物も必ず食べました。



油揚げをあぶる参拝者

サルに注意！



昨年暮れころから、定光寺町にサルが一匹出没しています。初めのうちは定光寺公園東の信号交差点付近に常駐？していましたが最近はおちこちと移動し、東島のあたりでも目撃されるようになりました。

タマネギの苗を抜かれたとか、ゴミ箱を荒らされたとかの被害も出ているようです。餌を与えたり、手出しなどしないよう子どもたちにも注意を呼びかけましょう。

初詣とムササビ

「かけがわっ子ひろば」は年末の12月29日から年始の1月3日まではお休みでした。

1月4日、年が明けて「かけがわっ子ひろば」が始まった初日に、児童たちが下半田川町の八劔社を初詣に訪れました。

そのとき境内に棲んでいるムササビが樹洞からヒョコッと顔を出しました。ムササビは夜行性で昼間はめったに姿を現さないので実物を見たことのある子はほとんどいません。みんな大喜びでした。

ムササビは草食性の動物で、木の葉っぱなどを食べますが、春先になると椿の花やつぼみを好んで食べます。

ムササビが八劔社の森で、いつまでも落ち着いて棲めるよう、むやみに巢のある木をたたいたり大声を上げたりしないように静かに見守っていきましょう。



田おこし体験



2月17日(水)、掛川小学校の学習田で田おこし作業があり、全校児童が参加して耕運機による田おこしを体験しました。

田おこしは冬のこの時期に行っておくと土に空気がよく混ざり、土中の有機物がよく腐って肥料になること、土が凍って田植え時期の田おこしや代掻きが楽になることなどの効果があり、昔から行われてきた農法です。

農業機械の扱いを指導したのは地域の有志。1年生から6年生までみんな機械に触らせてもらい、大喜びでした。

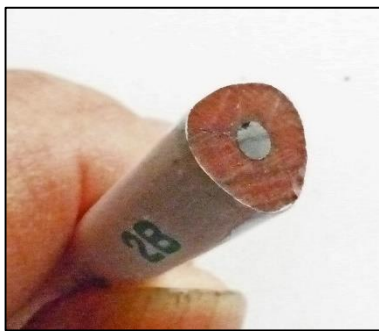
鉛筆と箸

1 鉛筆はなぜ六角形か？

「鉛筆の断面が六角形なわけは？」
「それは机の上で転がらないため」こんなやりとりがひとつはあったことがあります。転がらないようにという目的だけであれば、なにも六角形である必要はないわけで、三角形や四角形でも構わないはず。

なぜ六角形なのか、ある人がこんな事をいっています。「鉛筆を無理なく持つためには三角形や四角形ではだめで六角形が一番よい。機能的な鉛筆の持ち方は親指の先と人差し指の先、そして中指の爪の横の3点で支持するわけで、この意味から鉛筆の側面の数は3の倍数になっているのが最もよい。しかも3本の指にフィットする一番いい形は6つの面が必要であり、それより多くても少なくてもいけない」と。

鉛筆で長時間文字を書き続けても指が疲れな



断面が三角形の鉛筆

いたためにはこの理屈は理にかなっているように思えます。

切り口が三角形の鉛筆がありますが、持ち方を矯正するためのもので、三つの面はわずかに丸みを帯びています。三つの面が平面だと使い勝手はひどく悪くなります。

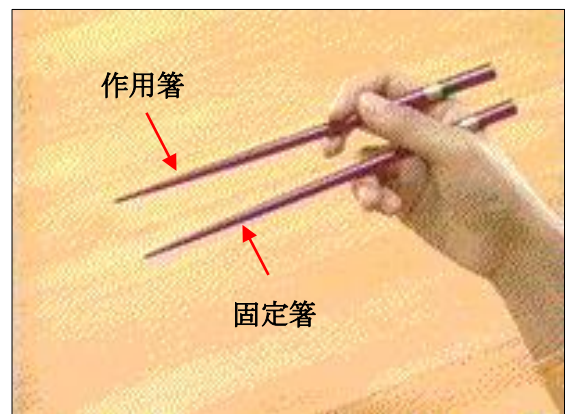
2 鉛筆と箸の共通点

箸の持ち方は鉛筆の持ち方と基本は同じです。二本の箸のうち固定箸（動

かない方の箸）は中指の先と薬指の爪の付け根の横で支えられるところが鉛筆の場合とは違いますが、もう一方の作用箸（動く方の箸）は鉛筆と全く同じです。事実、箸の持ち方が正しくない子は鉛筆の持ち方も正しくないことが多いのです。

鉛筆にしても箸にしても、正しい持ち方ができないと、その目的とすることが無理なく運べません。一番多く見られる誤りは親指の先で支えなければならぬところを親指の第一関節にもっていている例です。鉛筆の場合は美しい文字を長時間にわたって書き続けることは望めませんし、箸の場合は細かいものがつかみづらばかりでなく、食べ物を口に運ぶ所作がはた目にも見苦しいものになってしまいます。食事処で、若い女性のスタッフが皿に盛った料理を取り分けてくれた時、箸の使い方がいかにも稚拙で幻滅を感じてしまったことがあります。

鉛筆や箸の持ち方にも作法があるのは長い時間を経て一番合理的で機能的な型、つまり美しい型にいたったものであるということではないでしょうか。



正しい箸の持ち方



掛川小学校の沿革 3/3

年代	できごと
昭和 56 年	今までの校舎より約 300m 東に位置する下半田川町 592-41 の山林等を造成し、新校舎建設工事が始まる。
昭和 57 年	<p>・建設中の鉄筋校舎壁に陶板製の大校章を取り付けた。(12月20日)</p> <p>・右は当時の学校だより(S57.1224)の切り抜き記事で、今では懐かしいガリ版刷りである。</p> <p>第7回卒業生が初老記念として昭和56年度に学校へ寄付したお金が校章製作費に充てられたことが載っている。</p> <div data-bbox="699 528 1394 1055" data-label="Image"> </div>
昭和 58 年	<p>・3月中に新校舎完成。学習セット・備品等の移転が完了。</p> <div data-bbox="384 1155 740 1424" data-label="Text"> <p><u>竣工間近の鉄筋校舎</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場にはまだ整地中のブルドーザーが。 ・校章はすでに壁に取り付けられている。 <p>写真右 S.58.3</p> </div> <div data-bbox="751 1155 1385 1585" data-label="Image"> </div> <p>・4月より鉄筋3階建ての新校舎で授業が開始される。</p>
平成 5 年	<p>校門に続く通路の入り口に校名版が取り付けられる。(3月)</p> <p>第47回卒業記念として卒業生参加のもとに制作された。</p> <div data-bbox="874 1626 1385 2007" data-label="Image"> </div>

10回にわたって連載してきた「掛川小学校シリーズ」は今回をもって終了です。

会員の声
「かけがわっ子ひろば」にかかわって

下半田川町 富田陽子

「かけがわっ子ひろば」開設と同時に運営協力員を引き受けていただいている富田陽子さんに感想と抱負を寄せていただきました。

私は、昨年10月1日に開設しました「かけがわっ子ひろば」の運営協力員を務めさせていただいています。10月から早いもので半年が経ちました。子どもたちに助けをもらいながら楽しく過ごしております。

私は以前、多治見市の学童保育に勤務しておりました。その学校は児童数も多く、学童保育に来る子どもたちも100人ほどいました。

今回「かけがわっ子ひろば」に関わらせていただくことになり、どんな感じかなと楽しみにしておりました。想像以上に「かけがわっ子ひろば」の子どもたちは素直で思いやりのある優しい子ばかりでした。毎月の行事の中で高学年の子は低学年の子を優しく手助けする姿勢が身につけており、感心しました。

いろんな場面で人数の少ない学校の良さを発見しています。行き届いた先生方の学習・生活指導、そして地域の皆様と保護者の方々の子どもたちに対

する深い愛情にも感心しております。

「かけがわっ子ひろば」を開設できたのも、きっとこの地域の皆様と保護者の皆様の深い愛情と努力、そして強い熱意があったからこそと思います。

これからも地域の皆様のご協力をいただきながら、保護者の皆様が安心して働けるように努力いたします。「かけがわっ子ひろば」の子どもたちと楽しく、この地域の素晴らしい自然とともに過ごしていきたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



「かけがわっ子ひろば」の様子

編集後記



本号は平成27年度の最終版です。

この一年、「会員の声」欄に寄稿いただくなど、皆様には広報編集にご協力いただきありがとうございました。

来年度も地域に根ざした親しみやすい広報誌をめざし、工夫を凝らしていきます。引き続きご支援いただきますようよろしくお願いいたします。